

ガリッサ訪問報告書

名古屋大学大学院 国際開発研究科
教育・人材開発プログラム
山田ゼミ生 藤本めぐみ（M1）

今回、山田肖子先生のご紹介でミコノインターナショナル（以下ミコノ）が活動しているガリッサへボランティアで行くことになり、ミコノの土方御夫婦、JICA 保健セクター専門家の中原由美子さん、天理大学の関本克良先生、井上昭洋先生に大変お世話になりました。活動報告を兼ね、ここにてお礼を申し上げたいと思います。



後列左から中原由美子さん、井上昭洋先生、関本克良先生、土方明さん
前列左からいつかさん、藤本めぐみ、土方栄子さん

1. 訪問期間

平成 23 年 3 月 6 日～平成 23 年 3 月 20 日

2. 訪問地域

ケニア共和国北東州ガリッサ県

●ガリッサ

ガリッサはケニアの首都ナイロビから北東に 370 k m離れた所に位置する町で、草木もまばらな灼熱の半砂漠の大地にあります。ここに住む多くの人々は、1900 年前後にエチオピア東部のオガデン地域から移住したソマリア民族で、同国では少数派です。彼らはラクダや牛の遊牧と、それに関連した産業を営みながら生活しています。



●ミコノインターナショナル

-メンバー

代表 土方明

副代表 Warusame さん、土方栄子さん



ミコノの敷地内の様子



ミシン教室

●ミシン教室

ここでは、一人の現地女性が月曜から金曜の午前9時～12時、昼14時～17時の間、ミシン教室に来る生徒にミシンの使い方や服の作り方の指導をしています。私も足踏みミシンで初めてソマリドレス作りに挑戦してみましたが、非常に難しかったです。ミシンの先生に持参していたカンガをスカートに作成してもらいました。



←自作



先生作成

→

●ミコノの活動内容

ケニアでの活動；校舎、井戸、医療施設建築、職業訓練、奨学金事業

日本での活動：衣料救援

●井戸掘り視察 （Doloo Mitti 村）



- ① 井戸の場所を定めている状況
井戸の水を汲むための紐を
木に結びつけるため、
木の近くに
井戸堀の場所を定めている

- ② 場所を定めたら円を描き、



- ③掘り始めます。
6時間掘り続けると水出て
くるそうです。

掘るのは主に現地の人

今回、視察に同行させていただいた North Eastern Province 女子高等学校(生徒数 340 名:2009 年), Umu-salama 女子高等学校(生徒数 500 名 : 2009 年)は、JICA の草の根協力事業「女子高生中退率を減少させるプロジェクト」の対象校であり、天理大学とミコノが共同で行っているものであった。詳細 : <http://www.tenri-u.ac.jp/topics/q3tncs00000067lu.html>



建設の様子



North Eastern Province Girls Secondary School

左から関本先生、Warusame,校長先生、副校長、心理カウンセラー、自分、土方明さん

ガリッサ地域の女子高生が中退する原因として早婚、家庭の問題、経済的、文化的な理由が考えられ、現状では彼女たちはなかなか相談する場所や機会がない。そういった背景からこのプロジェクトは進められており、カウンセリング室の建設をミコノが中心に行っている。8月にはガリッサで心理カウンセラー育成を目的としたセミナーを企画しており、そのために天理大学から関本先生、井上先生が視察に来られていた。

●ミコノの敷地内に施設を建設中、Workerの皆様



●District Education Office (DEO)訪問

天理大学の先生が8月にセミナーを予定しており、そのための挨拶に同行させていただきました。



左から関本克良先生、Yunis、自分、Warusame

まとめ

ケニアには 2 週間の滞在でしたが、本当に多くのことを学び、体験させていただきました。初めてのアフリカで最初は生活の不便や困難を感じましたが、ミコノの土方御夫婦、ボランティアのいつかさん、ミコノの **Worker** の方々と過ごすことで現地の状況や人々が抱える問題を知り、自ら考え、行動することの重要性を改めて認識することができました。また、JICA の専門家（保健セクター）の中原さん、天理大学の関本先生、井上先生からは開発分野の仕事や研究に関して貴重なお話を聞かせていただきました。これらの経験を踏まえ、今後の大学院生活に活かしていきたいと思います。

少し余談ではありますが、ガリッサで飲むビール、夜に見える輝く星、ミコノの敷地内にあるお風呂（露天風呂）はこの上ないほど最高でした。